アクション・リサーチのまとめ

英語教員指導力向上研修

18098 学校名 沖の島中学校 受講番号 西田 園 氏名

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 全校生徒 **生徒数** __4__ 名

単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 ONE WORLD 1(教育出版)、SUNSHINE 2, 3(開隆堂) 科目名 1、2、3年

クラスの様子・特徴

本校は生徒数4人の極小規模校である。全員が真面目に授業に取り組むことができるが、授業での活動において消極的な面も見られる。「話すこと」での 十分な表現力が身についているかというとそうとは言えない。

問題の確定

身近なことについて既習事項を使って表現できる力(スピーキング力)をつける活動と時間の確保が十分ではない。

A 授業の観察

授業に対してどの生徒も真面目に取り組む が、消極的な面があり発表の声も小さくなりがち 0%、「書くこと」が50%、「聞くこと」「読むこと」 である。テーマを決めて5分間の準備時間をとっ ての1分間スピーチでは、5分間では準備時間 が足りなかった。手順の説明や準備時間等の工 夫の必要を感じた。

B 生徒による授業評価

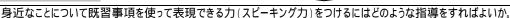
英語学習で好きなことは、「話すこと」が10 が25%ずつであった。一番できるようになりたい ことも「話すこと」が100%、「書くこと」が50%、 「聞くこと」「読むこと」が25%ずつだった。

C 学力データ

【昨年度のCRTの結果】

現中2は「聞くこと」122、「話すこと」125、「読むこと」141、「書くこと」102 現中3は「聞くこと」106、 「話すこと」93、「読むこと」105、「書〈こと」113

リサーチ・クエスチョン



仮説·実践·検証



仮説1 実践1 教科書の音読練習を十分に行い、暗唱させること

本読みの回数を増やし、速読の練習や教科書を で英文に慣れ、身近なことについて既習事項を使っ 見ずに繰り返す、シャドーイングを毎回行った。宿題 て表現できる力をつけることができるのではないか。 をさせるようにした。

検証1

検証2

検証3

どの生徒もシャドーイングが随分上手にできるように なってきた。英語の音読練習を多く行うことで英語の として教科書を毎日10回以上読み、できれば暗唱 音声に慣れ、以前よりも大きな声で音読やスピーチの 発表ができるようになった。

実践2

既習事項についてQ&A活動を多く行えば、英語 を話す機会が増え、英語を話すことの訓練となり、身 始めにQ&A活動を行った。英語の授業へのウォー 近なことについて表現できる力をつけることができるの ムアップでもあり、新出文型の復習となった。また、 ではないか。

既習事項(特に新出文型)について毎回授業の 本文の内容についても英問英答を行った。

9月に行ったQ&A活動のテストでは40点満点で1 年生が30点、2年生が31点、3年生が28点だっ た。それに対して12月に行ったインタビューテストでは 1年生が35点、2年生が36点、3年生が31点と9 月よりも全員点数が上がっていた。

仮説3 実践3

新出文型について練習を十分に行い、更に自己 表現活動を行えば、身近なことについて既習事項を を行い、パターンプラクティスを取り入れ定着を図っ 使って表現できる力をつけることができるのではない か。

新出文型について説明した後、何度か音読練習 た。また、できるだけ自己表現活動を取り入れた。 生徒が興味や関心をもって考えられるように、場面 や話題を身近なこととし、英語を何回も言えるよう 発表する機会を多くした。

新出文型については定期テストで「表現の能力」の 定着度を測った。1年生は32点中32点と満点で あった。2年生は40点中38点であった。3年生は30 点中12点だった。また、スピーチの原稿作りを行う際 に、既習表現を用いる回数が増えてきた。

研究の成果



アクション・リサーチの実施前は英語学習において好きな活動は「話すこと」であるのに、苦手な活動にも「話すこと」をあげている生徒もいた。また、授業にお |いてもスピーキング力をつける活動が十分ではないと思われた。そこで、3つの仮説を立て、実践した結果、個人差もあるが、既習事項を用いて自己表現しよ うとする態度が身についてきた。また、Q&A活動や英問英答を継続して実施したことで、生徒の声も大きくなり、英語を話すことへの積極性が見られるように なった。

今後の授業改善の課題

英語学習についてもう1度アンケートをとるべきだった。仮説の3については、3年生の定着がいまひとつだったことからさらなる改善や工夫が必要である。あたり 前のことかもしれないが、何か取り組みをすれば、そのことに対して結果が出るということがわかった。課題を明確にして解決していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 0880-69-1302 電子メール

sono_nishida@kt4.kochinet.ed.jp